

(表 3)

事業所数

ハロー ワーク	H11 事業所 数 (10月1日現 在)	H8事業所数 (7月1日現在)	H11-H8 増加事業所数	H11新設事 業所数	開業率	廃業率
阿蘇	3,558	3,746	-188	251		
菊池	3,453	3,545	-92	386		
鹿本	3,954	4,159	-205	304		
玉名	3,956	4,101	-145	366		
荒尾	2,671	2,758	-87	353		
地域計	17,592	18,309	-717	1,660	3.3%	4.7%
県計	83,999	87,789	-3,790	9,437	3.9%	5.5%

(平成11年 事業所・企業統計調査から)

1 開業率

開業率 = 年平均新設事業所数 / 期首事業所数 × 100

※年平均新設事業所数 = 新設事業所数 / 調査期間(33月 / 12月)

2 廃業率

廃業率 = 年平均廃業事業所数 / 期首事業所数

※年平均廃業事業所数 = 年平均新設事業所数 - 年平均増加事業所数

※年平均増加事業所数 = 増加事業所数 / 調査期間(33月 / 12月)

熊本県公告第 387 号

地域雇用開発促進法(昭和 62 年法律第 23 号)第 5 条第 1 項の規定に基づき策定した熊本県南部地域雇用機会増大計画について、厚生労働大臣の同意を得たので、同条第 6 項の規定により、次のように公表する。

平成 14 年 5 月 10 日

熊本県知事 潮 谷 義 子

熊本県南部地域雇用機会増大計画

1 熊本県南部地域の区域

(1) 地域の概要

本地域は、県南部に位置して宮崎県・鹿児島県と接し、面積は、2,681km²と県全体の36%を占めており、八代地域、水俣・芦北地域及び人吉・球磨地域からなる。八代地域は、製紙業やアルミ製品製造業等が集積する一方、いぐさや施設園芸を中心とした生産性が高い農業が展開されてきた。水俣・芦北地域は、温暖な気候や変化に富んだ地形を生かし、柑きつ類を中心とした農林水産業と臨海部の化学関連工業により発展してきた。人吉・球磨地域は、球磨川や人吉温泉などに代表される豊富な自然を有し、相良700年の歴史・文化に培われた個性ある文化圏を形成しており、農林業を中心に発展してきた地域である。

人口は、318,338人(平成12年国勢調査)であり、この5年間で10,237人(3.1%)の減少となっている。労働力人口は160,043人(平成12年国勢調査)、うち就業人口は153,554人となっている。

(2) 区域

熊本県南部地域の区域は次のとおりとする。

八代市、人吉市、水俣市、坂本村、千丁町、鏡町、竜北町、宮原町、東陽村、泉村、田浦町、芦北町、津奈木町、錦町、上村、免田町、岡原村、多良木町、湯前町、水上村、須恵村、深田村、相良村、五木村、山江村、球磨村の3市11町12村の区域

(3) 雇用機会増大促進地域とする理由

以下のとおり、本地域は地域内に居住する求職者に関し地域雇用開発促進法第9条から第11条に定める雇用機会増大促進地域に係る地域雇用開発のための措置を講ずることとする。

イ 自然的経済的社会的条件

本地域は自然的条件としては地理的に連続しており、自動車等の通常の方法により通勤した場合に要する時間も概ね往復4時間以内となっている。

本地域は、国道3号・国道219号等の幹線道路、九州縦貫自動車道、JR鹿児島本線等の交通網で結ばれているが、今後、延伸が図られている南九州西回り自動車道、平成15年末完成予定の九州新幹線鹿児島ルート(新八代～西鹿児島間)、4車線化が促進されている九州縦貫自動車道(人吉～えびの間)により、さらに域内外の交流が活発化すると期待され、経済的、社会的にも一体となっている。

ロ 地域の求職者及び求人の状況

本地域の常用有効求職者数(以下「有効求職者」という。)の最近5年間における月平均値は、5,591人であり、基準となる4,000人を超え、直近6月において増加傾向にある。また、本地域の常用有効求人倍率(以下「有効求人倍率」という。)の最近5年間における月平均値は、0.37倍と同期間における全国の月平均値0.49倍以下となっているが、直近6月においてより厳しさを増している(表1・2参照)。

ハ 地域の事業所の状況

本地域の事業所数は、平成8年において16,392事業所であったが、平成11年までの開業率は3.3%に対し、廃業率は4.9%と廃業率が開業率を上回っており、平成11年において15,668事業所に減少した。(表3参照)

2 熊本県南部地域における労働力の需給状況その他雇用の動向に関する事項

平成10、11年度の景気の低迷により、平成8年度の有効求人倍率の月平均値0.48倍が、平成11年度は0.30倍まで落ち込んだが、表2に示すとおりさらに厳しさが増している。これは、有効求職者が平成8年度の月平均値5,036人から直近6月において月平均値で6,453人を超えるまで増加したこと、本地域の常用有効求人件数が平成8年度の月平均値2,432件から直近6月において月平均値で1,454件まで減少したことによる。(表1・2参照)

有効求職者の年齢別内訳を平成12年度の実績でみると、45歳以上の有効求職者が48%を占め、その有効求人倍率は0.11倍と非常に厳しい状況となっている。

また、上記1ハで述べたとおり、事業所数が減少傾向にあり、新たな雇用機会の創出も低調な地域であるといえる。

平成12年の労働力人口は、第1次産業が16.4%、第2次産業が28.5%、第3次産業が55.1%となっている。産業分類別にみると、サービス業25.4%(県計28.6%)、卸売・小売業・飲食店19.2%(県計21.2%)、農業14.9%(県計11.0%)、製造業16.1%(県計14.0%)の順となっており、他の地域に比較すると農業及び製造業がより大きなウェイトを占めている。

3 熊本県南部地域の地域雇用開発の目標に関する事項

本地域の拠点であり、県下第二の都市である八代市を有する八代地域は、かつては県下随一の産業集積度を誇り農業も高い生産性を示してきたが、昨今の産業構造の変化や外国製品との競争等の環境変化への対応が求められている。また、水俣・芦北、人吉・球磨地域は、過疎化、高齢化が進展しており、全体的に産業の低迷が続いている。

しかし、本地域は、港湾機能の強化、九州新幹線、九州縦貫自動車道(人吉～えびの間)の4車線化、南九州西回り自動車道等、本地域の発展の鍵ともなる交通基盤整備が進められている。

そこで、本地域において、本県の長期計画である熊本県総合計画「パートナーシップ21くまもと」を踏まえ、本地域の交通基盤の優位性等を生かし、以下のような手法による雇用開発をめざ